

1. めざす姿と5つの柱

第5次豊岡市行財政改革大綱(2024～2028年度)のめざす姿とその実現のための根幹となる視点(柱)は、次のとおりである。
これらの進捗状況は、毎年1～2月に実施している「まちづくりアンケート」等によって検証する。

- (1) めざす姿 限られた資本と多様性を活かし、市民の視点で公共サービスが持続可能な状態で提供されている
- (2) 5つの柱
 - ① 公共サービスが多様な人たちによって創造されている
 - ② 多様な市民の思い・願いが尊重されている
 - ③ さまざまな豊岡の資本が効果的に活用されている
 - ④ デジタル社会を前提とした市役所になっている
 - ⑤ すべての職員にとって働きがいのある市役所になっている

2. 4つの重点項目

行財政改革の成果を最大化するために取り組むべき重点項目は、次のとおりである。

今回、その進捗状況を検証するため、それぞれの目標を定めた。これらの目標は相互に関連するので、すべての目標が達成できるようバランスを取りながら行財政改革を推進していく。なお、目標はいずれも2028年度末の状態である。

(1) 行政手続きのデジタル化とDX

市民サービスの向上を図るとともに、業務の効率性を高めるために、デジタルを活用した業務の再構築を進めていく。

【目標】 手続き等のオンライン化率 100%(法令の制約があるものを除く)

(2) 組織・人員体制の最適化

人口、地域の労働供給、税収等の減少に対応するため、デジタルを活用し主として管理・間接部門の業務を効率化し、スリムでコンパクトな市役所に移行していく。

【目標】 正規職員数 24人削減(一般事務職等定年退職者の1/2不補充)

(3) 財政収支の均衡

厳しい社会・経済情勢の中でもまちの魅力を高め続けるために、各部局においては、豊岡市が有する多くの資本に注目し、自律的・戦略的に事業を取捨選択する。その際、事業に投入する一般財源の削減を強く意識し、市全体の収支均衡を図る

【目標】 実質単年度収支の均衡

(4) 人材の確保・育成・活躍推進

限られた職員数で多様化する地域課題の解決等に取り組むため、優れた・多様な人材を確保し、一人ひとりが潜在力を最大に発揮できるような仕組みを構築する。また、職員が働きがいと働きやすさを感じる組織への変革を図る。

【目標】 豊岡市ワークイノベーション表彰基準の達成(定量的に測定できない項目を除く)